



バーナード・リーチ：青磁鎬文様鉢（1920年代）

バーナード・リーチ：染付鳥文水差（1910年代）



クラフツ・スタディー・センター（CSC）は、1970年、優れた20世紀の英国工芸を保存するために工芸家や教育者たちの小さなグループによって創設され、非営利団体として登録されました。現在、センターは20世紀および現代工芸のユニークなコレクションと資料群を擁するものとして国際的な評価を得ています。



コレクションには、セラミクス（陶磁器）、テキスタイル（染織）、カリグラフィー（書）、ファニチャー（家具）などが、工芸作家の日記や制作ノート、写真などと共に所蔵されています。その多くが寄贈品・遺贈であり、バーナード・リーチ（陶芸家）やルーシー・リー（陶芸家）、ハンス・コパー（陶芸家）、エセル・メーレ（染織家）、フィリス・バロン（染織家）、エドワード・ジョンストン（カリグラファー）、アーネスト・ギムスン（家具作家）など、影響力をもった作家たちによる作品を含んでいます。

CSCは、1977年にバースのホルボーン美術館内に開設され、2000年にファーナムにあるユニヴァーシティ・カレッジ・フォー・クリエイティブ・アーツ（当時サリー・インスティテュート・オブ・アーツ・アンド・デザイン）に移転し、新しく独立した美術館が建設されました。

Crafts Study Centre

University College for the Creative Arts
Falkner Road, Farnham, Surrey GU9 7DS

T +44 (0)1252 891452

F +44 (0)1252 891451

E craftscentre@ucreative.ac.uk

CRAFTS STUDY CENTRE

クラフツ・スタディー・センター
バーナード・リーチ関係資料目録

www.csc.ucreative.ac.uk

20世紀を代表する陶芸家
バーナード・リーチに関する
資料群へのアクセスがイン
ターネットのオンライン上で
可能となりました。

クラフツ・スタディー・
センター所蔵の
バーナード・リーチ
関係資料目録と
項目索引がオン
ライン上で公
開され、その
主要コレクションである
15000点以
上の資料群
の解説や資
料請求番号
などを確認
することができます。



バーナード・リーチと濱田庄司、濱田和枝、ジャネット・リーチ（リーチ工房のスタッフたちと共に、1960年代）

1200頁におよぶ目録は、リーチの生涯にわたる日本との豊富な交流関係を裏打ちする書簡、写真、草稿、紀行・日記などの資料について解説し、閲覧請求番号を付したものです。これまでこの目録は、英国のファナムにあるユニヴァーシティ・カレッジ・フォー・クリエイティブ・アーツ附属の当センターを直接訪ねることによってのみ閲覧することができたものです。検索機能がなかったために、1枚1枚ページを繰って必要な資料を確認しなければならず、利用者はその確認のみに時間を費やし、肝心の資料そのものを閲覧する時間を制限されてしまうのが実情でした。

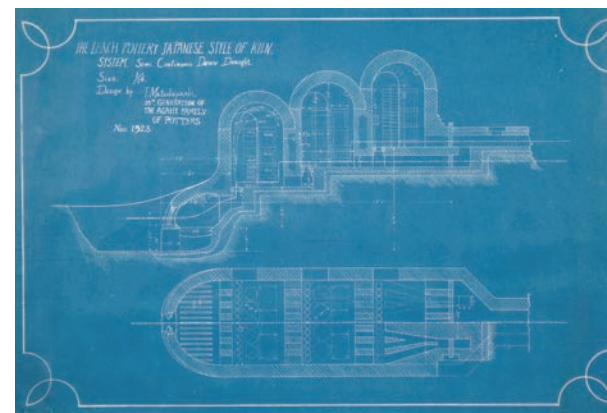
バーナード・リーチ関係資料は、20世紀の英国および日本における工芸運動の相互関係や両国の文化交流史を知る貴重な情報源です。たとえば、柳宗悦と民芸運動の展開、リーチと濱田庄司との交流関係、また、セント・アイヴスのリーチ工房を取り巻く情況などに関するものを含んでいます。この資料群は、1980年代の半ばにクラフツ・スタディー・センター（当時は在バース）のコレクションに入って以来、国際的な注目を集めています。

◀ バーナード・リーチ：鉄釉櫛描抜絵瓶（1960年代）



バーナード・リーチ：ガレナ釉筒描スリップ皿（1920年代）

これらの情報源へはクラフツ・スタディー・センターのウェブサイト（www.csc.ucreative.ac.uk）からアクセスし、項目による検索をすることが可能です。なお、ネット上で公開するのは目録であり、資料そのものではありません。当センターでは、日本の皆様によるこの目録および資料群の活発な利用によって、この分野の研究がますます進展することを期待しています。



朝日窯第39日目松林鶴之助デザインによるリーチ工房の登り窯の設計図（1923年11月）